

令和5年度あきる野市タウンミーティング 主な懇談内容

1 あきる野子育てステーション こころの <令和5年10月7日(土)開催>
① 障がいのある子どもを育てる家庭に対する支援について
Q 大阪府で実施している通学ヘルパーのような支援があれば、障がいのある子どもを安心して通わせることができると思うので、子育て世代に対するヘルパーについても考えてほしい。
A 障がい児については、様々な支援が必要とされていることも事実である。障がいのある子どもを育てる家庭に対するサポートが充実できるよう検討していきたい。
② 子育てに関する市の取組の情報発信について
Q あきる野市は子育てに関する情報が分かりにくいと感じる。ここを見たら子育てに関する情報が分かる、というものがあれば、利用しやすくなると思う。
A 子育てに関する必要な情報へのアクセスしやすさに対するニーズは高いと思う。他市の良い事例を参考にして、考えていきたい。
③ 夫婦共働きの世帯に対する支援について
Q 夫婦共働きの世帯の多くは、都心で賃貸暮らしをしている。今後、夫婦共働きの世帯への支援に力を入れて前面に出していけば、そういった層も移住者として取り込むことができるのではないか。
A 移住・定住の施策については、収入の高い・低いにかかわらず、あきる野市の自然の良さを感じて、生活を楽しんでくれる方に来てもらいたいと考えている。様々なアイデアをいただきながら進めていきたい。
④ 不登校の子どもに対する支援について
Q 不登校でも、勉強できる子どもが多い。学校へ行ってなくても就職ができれば良いと思う。学校に行っていない子どもが職業訓練できる制度があればと思う。
A 今の子どもたちは、今後の人手不足の時代を支えていく世代になる。一人ひとりの個性を生かせる社会にしていきたい。
⑤ 地域の特性を生かした教育環境について
Q 子育て世代の親は、出産や子どもの小学校入学などの節目のタイミングで移住・定住を考えるとと思う。秋川高校跡地に学校ができれば、話題になるのではないか。自然体験や都立あきる野学園との交流など、立地を生かした教育ができれば良いと思う。
A 今後、市では学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の導入を進めていく予定である。地域の中での体験活動については、現在も、伝統理解の教育、事業所での実習、秋川で釣りなどを行っている。広報活動を通じて、あきる野に目を向けてもらえるように考えていきたい。また、不登校のお子さんも増えてきているので、そういった子ども達の居場所も充実させていく必要がある。自然を教育の面で生かしていければと思う。
⑥ 子育て世代を支援する施設について
Q 子育てステーションこころのについて、日曜日と祝日は開庁していないのは残念である。こういった施設が五日市にもあればと思う。
A 日曜日と祝日は開いておらず、また、こころのほどの設備ではないが、五日市出張所の隣の五日市保健センター内に子育てひろばいつかいちがある。知られていなかったのであれば、より多くの人に知ってもらうために広報を充実させる必要がある。